

61号より、「裏から読んで心理学」を新しく連載します。各回テーマを絞り、研究の背後にある流れ、論文の行間に現れる研究の楽しさや苦労なども紹介していけたらと思っています。そうして、心理学研究の行間から見える研究者の“心”が見えてくるようなものが書けたらと思います。(平石 界)

どうなんでしょうね。念力とか読心術とか。本当なんでしょうか。気になったら調べてみる。これが科学の基本です。それではとコーネル大学のベム教授が取り掛かったのが予知能力。さあ寄ってらっしゃい見てらっしゃい。ご覧のパソコン画面にカーテンが二つ。どっちかをめくると写真が出るんだけど、さあどっちに出るのでしょうか!? 見事当てたら中にはセクシーな写真もあるお楽しみ。さあはったはった!

結果ですが53.1パーセント当たったそうです。どうなんでしょう。まぐれでも50パーセントは当たる。それよりは良い。でも差はたった3.1パーセント。そこで泣く子も黙るt検定です。やってみたら有意。3.1パーセントだけど統計的に意味のある正答率アップ。予知能力は存在する! それもセクシーな写真の時だけ予知できたというおまけ付き。

ベム先生、立派な大学の立派な経歴をお持ちの心理学者です。しかも研究が掲載されたのは天下のトップジャーナル『JPSP』。さすがに大騒動になりました。予知能力があるってことは、未来が現在を変えたことになるからです。ロケットに乗った人が長生きしたり、ネコが半死半生になったりする物理学だって否定しなかった因果律を、心理学がほいっと否定してしまったのですから。

このままだと心理学全体が世間様から「あやしい」と白眼視されかねない。敢然と立ち上がった三人の心理学者がいました。ベムの結果が再現されるかやってみよう! 「最も再現可能

性が高い」とベムお墨付きの、未来の勉強が現在の記憶を高めるといふ、未来の俺がんばれ、もっとがんばれ、という実験をやってみたのですが、三人ともが失敗しました。それで意気揚々と件のJPSPに論文を送ったら「うちは追試研究は載せないから」という理由で掲載拒否されてしまいました。

収まらないのが三人です。そりゃ「普通の」心理学研究だったらわからないでもない。「あの人のやったあれ、やっぱりアレだって」なんて話より、目からうろこの新発見を載せたほうが読者も喜ぶ。でもコトは因果律です。それなのに「追試は載せない方針」と杓子定規な回答なのです。怒った三人はブログでこの話をぶちまけ、それでまた一騒動が起き、最終的には『PLOS One』という雑誌に掲載されました。

それで結局、超能力ってどうなんでしょう? 超能力のことを考えると、かつて父に言われた「当たり前なのが当たり前であることのほうが、よっぽど面白い」って言葉を思い出します。予知能力もいいけど、リングが木から落ちることだって十分に面白い。だってあれ、リングと地球が引っ張り合ってるんですよ。糸でつながっているわけでもないのに万物が引っ張り合う万有引力。そんな不思議がたくさんあるのに、超能力をめぐって右往左往してしまう人間の心が、それこそとっても面白い。そんなふうに心理学の裏を読んでいきたいものですね。

—この騒動後JPSP誌にも(上述の3名とは別の著者による)ベムの追試失敗論文が掲載されました。



## Profile — 平石 界

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学助手・助教、京都大学助教を経て、2012年4月より現職。博士(学術)。専門は進化心理学。